

手広中28人が ぶし田植え

広町田んぼの会

田植え祭本番の2日前に当たる6月9日、広町緑地から1キロほど離れた鎌倉市立手広中学校の生徒28人が「ふれあい体験学習」で、6枚の田んぼのうち「れんげ田んぼ（約1.2アール）」にプレ田植えをしました。

午後1時前に緑地に着いた生徒たちは、田んぼの前で全員はだしに。まず、れんげ田んぼ南隣の「すみれ田んぼ（1.7アール）」の草を抜いてもらいました。次に、JAさがみ鎌倉営農経済センターから取り寄せた苗箱（30×60センチ）入



女子が真っ先に泥合戦

りの苗を、10センチぐらいずつに千切り、田んぼの中に投げこみます。

苗の種類は、うるち米のサトジマンでした。

生徒たちは3班に分かれて、第1班が田んぼに。ロープにペットボトルのキャップを30センチ間隔に固定した「田植えメジャー」に従って、5～6列を植えました。

「メジャー」の操作は初めだけ、スタッフが要領を教え、その後は生徒たちが交代で操作しました。



第1班が植え始めた

隣の田んぼで盛大に泥合戦

手空きの第2、3班が西隣の「新田んぼ」で泥合戦を始めました。前年も泥合戦の「参戦者」が多かったので、ことしは事前に「泥合戦は隣の田んぼで。全身の着替えを用意する」と伝えておいたのです。

男子が先に始めた前年と違って、ことしは女子数人が待っていたように、新田んぼに入り、泥の投げ合いを始めました。顔や髪が泥まみれになった生徒もいました。すぐ男子も続き、泥の中でプロレスっこ。

田植えを第2班が交代すると、第1班がすぐ、隣の田んぼに「参戦」。田植えと泥合戦のどちらが主目的か、判別しがたい雰囲気でしたが、それでも各班2回ずつ、田植えをし、メジャーも生徒が操作して、2箱半の苗を植え終わりました。

ことしも田植え祭の翌週、参加者が植えた苗の一部が水に浮かんだり、1株3本のはずの苗が足りなかったりして、補植しました。しかし、手広中生徒たちが植えた「れんげ田んぼ」では、補植の必要がなかった。泥遊びはそれとして、田植えはしっかりやってくれたようです。



メジャーも生徒が操作、
2箱半分の苗を植えた

田植えをしている間、自主保育グループ「でんでんむし」の母親たちが、去年の収穫米を炊いて、おにぎりを作っておいてくれました。

生徒たちは田んぼ横の御所川で手足や服の泥を落とし、事務所横の水道ホースで顔や髪も洗って、おにぎりを頬ばりました。水辺観察班の30人も、おにぎり賞味に合流しました。



収穫米のおにぎりを頬ばる